

昭和42年度 和歌山県文化賞

あり よし さ わ こ
有 吉 佐和子

住 所：東京都杉並区

出 身 地：和歌山県和歌山市

生 年：昭和6年

■ 職業

作家

◎業績及び経歴

昭和6年和歌山市に生まれ幼児期を市内で過ごした。父の転任によりジャワに渡りバタビア小学校に入学したが、第二次大戦中再び和歌山に帰り、県立和高女に学ぶ。昭和27年東京女子大(短期)を卒業、作家生活にはいる。

昭和31年作品「地唄」が芥川賞候補となり、早くも作家の地位を確立し、以来毎年多くの作品を発表した。代表作品に「紀ノ川」(昭和34年)「華岡青洲の妻」(昭和42年)などがあり、前者は「有田川」(昭和39年)「日高川」(昭和41年)と共に紀州の風物人情を精細な筆致で全国に紹介し、後者は郷土が生んだ世界的な麻酔医華岡青洲の偉業を、その内助者である母と妻の内心の葛藤を克明に描き出すことによって一そう大きく浮き彫りにしたもので、この作品には女流文学賞が授与された。文学のほか演劇分野にも活躍、豊麗多彩な作品をととして日本の文化に寄与し、本県の風土、人物、人情を広く紹介した功績はまことに大きい。